千葉市感染症発生動向調査情報

2022年 第36週 (9/5-9/11) の発生は?

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数 36週 35週 34週 33週 小児科 17 18 18 18 眼科 5 5 5 5 上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 インフルエンサ・ 28 28 27 28 基幹定点 1 1 1 1 「定点当たりの患者数」とは

報告患者数/報告定点数

_		Ŧ		葉		千葉県	
定点	感 染 症 名	注意報	9/5-9/11	8/29-9/4	8/22-8/28	8/15-8/21	8/29-9/4
, m		江 态刊	36週	35週	34週	33週	35週
	RSウイルス感染症		16	17	9	8	201
	ハウァイルハ心未近		0.89	0.94	0.53	0.44	1.57
	咽頭結膜熱		0	0	0	0	3
	"四项利用技术系统		0.00	0.00	0.00	0.00	0.02
	 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	7	3	1	23
	八年市皿はシンプか四で級又		0.22	0.39	0.18	0.06	0.18
	感染性胃腸炎	→	51	52	28	41	276
	松木江月陽火		2.83	2.89	1.65	2.28	2.16
.ls	水痘		0	0	1	0	7
小児	71/1 <u>17</u>		0.00	0.00	0.06	0.00	0.05
科	手足口病	**0	142	131	115	86	480
	1 /C //3	***	7.89	7.28	6.76	4.78	3.75
	伝染性紅斑		0	0	0	0	20
	以入口证		0.00	0.00	0.00	0.00	0.16
	突発性発しん		7	6	5	6	21
	J(J0 12,000.0		0.39	0.33	0.29	0.33	0.16
	ヘルパンギーナ		9	8	10	3	88
	, ,		0.50	0.44	0.59	0.17	0.69
	流行性耳下腺炎		0	0	0	0	5
	0.0101=-11.00004		0.00	0.00	0.00	0.00	0.04
イン	インフルエンザ		0	0	0	0	1
フル	(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
眼			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
科	流行性角結膜炎		1	0	2	0	8
			0.20	0.00	0.40	0.00	0.24
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	細菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
基	(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
幹定	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
点			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
****	無菌性髄膜炎		0	2	0	0	2
			0.00	2.00	0.00	0.00	0.22
	感染性胃腸炎		0	0	0	0	0
	(ロタウイルスに限る)		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患: 例 4.571 ※ 新型コロナウイルス感染症4.566例は数のみ

_ <u></u>	.,,		11. 41 T = 1.1. 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	30歳代	IGRA検査	腸管出血性	女性	10歳代	病原体の分離・同定 及びベロ毒素の確認
結核	男性	50歳代	IGRA検査	大腸菌感染症			
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代-100歳代	病原体遺伝子の検出等
梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出	-	1	П	_

[·]第36週は、結核3例(105)、腸管出血性大腸菌感染症1例(27)、梅毒1例(32)、新型コロナウイルス感染症4,566例 (136,433)の発生届があった。

^{※ ()}内は2022年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第36週のコメント

<感染性胃腸炎>

前週とほぼ同レベルで2.83となった。過去10年の同時期と比べるとやや少なめ。1歳で最多。区別の発生状況は若葉区(6.50)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告があった。

く手足口病>

第34週から3週連続で増加し7.89となった。流行発生警報開始基準値(5.00。以下「警報レベル」という)を上回ったまま。過去10年の同時期と比べるととても多い。1歳で最多。区別の発生状況は、全区で警報レベルを上回り、若葉区(11.50)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告があった。

- 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。
- 過去10年との比較グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2022.pdf

区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph ward2022.pdf